卒業・修了おめでとう

学長式辞

SDGsの意識を持とう

佐々木　重人

本日、専修大学の学部・大学院・法科大学院の課程を修了し学位を取得された皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。

昨年から今日に至るまで、本学の行事や活動は新型コロナウイルス感染症の拡大によって大きな変更を余儀なくされました。本日も感染防止対策上、ご父母・保護者の皆様にはご臨席いただけず誠に申し訳なく思っています。また授業についても、緊急事態宣言のもと全面オンライン形式でスタートせざるを得ませんでした。これによって皆さんには大きな負担をおかけすることになりました。

昨年、オンライン授業に関する学生アンケート調査を実施。7307人から回答をいただき、後期の授業運営方針を決定する際の参考になりました。4年次生からは「オンラインの利点をうまく生かすことが重要」など、前向きに捉えた回答がありました。

皆さんの気持ちを鼓舞したいと思いました。しかし感染症対策で苦闘していた本学を鼓舞してくれたのは皆さんでした。ご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。

コロナ禍での教育研究活動に取り組む中で、いろいろなことに気づかされた一年でした。第一は4年次生が入学した2017年度入学式において私は、当時取り組んでいた本学の創立140周年記念事業の内容を紹介し「専修大学の変革を、卒業する日まで見届けてほしい」とお願いしつつ、目標の実現に向かう大学での学びとはなにか、ということです。大学での学びにおいては学生同士や、学生と教職員の間でコミュニケーションを成立させることが不可欠であると再認識しました。学問とは議論や情報交換を通じて互いを高め合う過程でもあります。4年次生はそうした関係性を前提に、オンライン授業を評価してくれたのでしょう。卒業後もそれぞれが身を置く場所で活躍を続けてほしいと願っています。

第二に、学外の諸課題の解決に向けて積極的にコミットすることが求められているということです。本学は、教育目標である「社会知性の開発」の一環としてSDGsへの取り組みを加速させていきます。皆さんにもぜひこの意識を共有していただきたいと思います。

コロナ禍が少しでも早く終息することを願いつつ、今後の皆さんの活躍を心より祈念いたします。（要旨）

理事長祝辞

社会の中に立つ人であれ

日髙　義博

本日、晴れて学部を卒業される皆さん、そして大学院、専門職大学院を修了される皆さん、本当におめでとうございます。コロナ禍の中にありますが、慎重に検討を重ね、また皆さんの協力も得て本日無事に卒業式を挙行することができました。ご父母・保護者の皆様にも、多方面にわたり大変なご尽力とご支援をいただきました。改めてお礼を申し上げます。

専修大学で学んだ月日のなかで、皆さんそれぞれが、自分の心の中に将来の進路や生きる道を見つけたことと思います。ぜひその道を確実に一歩ずつ進んでください。皆さんがこれから歩む道は、まだ開かれていません。道は歩いた後にできます。どんな紆余曲折の道であっても必ず自分の糧になります。どのような道を歩んだのか、50年後に振り返ったとき、良かったと思えるように日々精進していただきたいと思います。

専修大学は昨年、創立140周年を迎えました。東日本大震災の後、キャンパス整備計画を修正しながら、諸々の記念事業を遂行しました。また、昨年はコロナ禍の中にあって非日常的な業務に迫られ、大学を運営してきました。それは現在も続いています。しかし、本学が歩むべき道は定まっています。創立者たちが描いた日本の高等教育に対する熱き思いを、私たちは、未来に向かって引き継ぎ、かつ発展させていかなければなりません。

本学の21世紀ビジョンは「社会知性の開発」です。これは建学の精神「社会に対する報恩奉仕」をより具体的に実行するために定めたものです。「社会知性：Socio-Intelligence」の「socio」はラテン語で「socius」といいますが、この言葉には「社会の中にあって社会の中に立つ」という意味があります。皆さん、社会の中に埋もれてはいけません。人々の、人間関係の中で生じる苦しみ、悲しみ、そして慈悲を自分の背中に背負って社会の中に立ち、社会貢献をしなければなりません。立つ場合の姿は、創立者たちの礼節と信義を持った生き方です。

自分が正しいと思った価値観を胸に秘め、そして本学の建学の精神を羅針盤として今後大きく発展し、社会に貢献していただければ、後輩たちの羅針盤にもなると思います。皆さんのこれからの尽力と発展を期待し、私の祝辞といたします。（要旨）

大学院・法科大学院総代

研究の成果を社会へ

博士後期課程修了生総代　東　史恵さん

都合により写真は掲載致しません

経営学研究科経営学専攻
論文題目「イノベーションによる価値創造のための集団的主観形成に関する研究：ロボットを活用した介護サービスを事例として」（指導教員・小沢一郎）

経営学部・修士課程・博士後期課程を通して、介護現場の経営課題の解決を目指し研究してきました。今後も実地調査を継続し、専修大学で学んだことを現場、学問、そして教育に還元できるよう努めます。多くの先生方から手厚いご指導と激励を賜り、充実した毎日でした。

経験を今後の活動に

博士後期課程修了生総代　萱間　隆さん

都合により写真は掲載致しません

文学研究科日本語日本文学専攻
論文題目「トーキーアニメーションと植民地主義――『海の神兵』とその周辺――」（指導教員・米村みゆき）

日本文学を専攻しつつ、その方法論を応用して戦時下のアニメーションについて研究しました。専門外のゼミや学内の研究発表会でコメントをいただき、それを取り入れることで博士論文を書き上げることができました。こうした経験を今後の研究活動にも役立てたいです。

学ぶという付加価値

修士課程修了生総代　三阪　友記子さん

都合により写真は掲載致しません

経済学研究科経済学専攻
論文題目「法人税法における公益法人課税の研究――宗教法人課税を中心に――」（指導教員・星野泉）

社会人になってから改めて学問と向き合うことで、知識と資格の取得はもちろんですが、「学ぶ」ことには人と人との関わりと、生きることを豊かにするという付加価値があると感じています。

専修大学大学院は通いやすく、社会人が学ぶに適したとてもいい大学院です。感謝の気持ちでいっぱいです。

最新の会計知識学ぶ

修士課程修了生総代　草野　岳さん

都合により写真は掲載致しません

商学研究科会計学専攻
論文題目「ライセンス契約に関する会計処理の研究――収益と無形資産の認識・測定を中心として――」（指導教員・国田清志）

最新の会計の知識を身につけたい。それが大学院での目的でした。難解な会計基準と実務への適用を、しっかり押さえることができ、有意義な2年間となりました。

社会人との両立は厳しかったですが、これから税理士として働くうえで、力になると確信しています。

法的知識で地域貢献

法科大学院修了者総代　小川　竜生さん

都合により写真は掲載致しません

以前にも司法試験を受けたが合格できず、一度は別の道を進みました。しかし専大法科大学院は支援制度が整っていることを知り、もう一度挑戦しようと決めました。

授業は充実しており、今年度前期のオンライン授業も、課題に取り組むことで集中を保ち続けることができました。

地元は「弁護士過疎地域」。これまで学んだ法的知識で地域貢献したいと考えています。

川島記念賞総代

学びを日々に生かす

総代謝辞　髙橋　未智さん

所属ゼミは「地方創生の管理会計」をテーマにしており、さまざまな社会人とともにリアルなビジネスを体験しました。3年次には、研究活動の集大成となる学外の大会で最優秀賞を受賞。チームリーダーとして大変なこともありましたが、達成感を感じました。

在学中から、ゼミや授業で学んだことを、日々の生活にどう生かすか考えて行動してきました。就職してからも、大学での学びを基本に活動していきたいと思っています。

出会いに恵まれ成長

総代謝辞　坂井　恵実さん

学内外での多彩な授業を通じて心理学の面白さと奥深さを知りました。思い出深いのは4年次に受講した「臨床心理学実習」。臨床現場で活躍する方々の言葉の一つ一つに深い感銘を受けました。共に学んだ仲間たちに支えられ、多くの実験や実習を無事やり切ることができました。在学中に得た人間関係は大きな財産です。

卒業後は大学院に進みます。さらに学びを深めて公認心理師の資格を取得し、将来は医療分野で働きたいと考えています。

2度の「大学日本一」

体育賞総代　枝松　亜実さん

一番の思い出は、1年次に全日本大学総合卓球選手権（個人の部）の女子ダブルスで優勝したこと。パートナーの安藤みなみさん（平31商）に支えられながら、入学時に掲げた「大学日本一」の目標を達成し、心からうれしかったです。この経験が自信となり、同大会で連覇するなど、楽しく、悔いのない4年間を過ごすことができました。

今後は、卓球部で培った「考える力」を生かし、責任感を持って仕事に取り組みたいと思います。

予感通り充実の日々

奨励賞総代　野畠　音々さん

入学時のエクステンションセンターの募集ガイダンスを受け「何もせずに4年間を過ごすより、大きな夢に挑戦できそうだ」と感じ、公務員試験講座を受講しました。1、2年次はアルバイトや遊びも楽しみ、3年次から勉強に集中。うまく切り替えることで、自分の時間を贅沢に使うことができました。

講座の仲間と競い合うことはもちろん、学部の友人の応援も心強い味方になりました。最初の予感を実現できた4年間となりました。

監査法人で経験積む

奨励賞総代　内藤　拓也さん

入学後に公認会計士試験の学習を始め、2年次で合格することができました。苦しかった試験勉強も今では良い思い出です。合格を機に働き始めた監査法人では、学生とはいえ高い専門性と責任感が求められました。その厳しくも充実した時間は、今後の人生に実りをもたらしてくれると信じています。

公認会計士は幅広い分野で活躍が期待されています。引き続き自分を高め、進むべき道をしっかりと見定めていきたいと思います。